

巻頭言

看護学科紀要の発刊に寄せて

保健医療学部長 森下伊三男

朝日大学保健医療学部看護学科が平成26年4月に創設され、その初年度内に紀要の第1号が発刊されることを大変うれしく思います。発刊に向けて労を執られた紀要委員会の先生方や論文を執筆していただいた先生方に心より感謝申し上げます。これまでに、研究所紀要、学部紀要、研究科紀要などいくつかの紀要の編集や査読、投稿の経験から申しますと、紀要というのは学会等が刊行している特定の学問分野を軸とした論文誌とは違い、別の存在意義を持った学術雑誌であります。看護学科という組織が軸として加わります。紀要は看護学科を映すある種の鏡のような存在であろうと思います。

私は看護学科に所属しているものの教養基礎科目が担当で、看護学分野に関わったことは無く、看護学科所属の諸先生方の研究領域についても全くの素人です。従って、全くの見当外れかも知れませんが、看護学は現場に直結した学問領域で、常にその内容が更新されている分野の一つであり、研究推進の為には最新情報を吸収し、不断の努力が要求される分野であろうと推察します。また、医学分野に加え、人や社会との関わりをも研究対象となる複合的で自然科学や社会科学・人文科学が一体となった領域の一つに看護学があるのだらうと思います。

そのような領域において、紀要を新たに発刊することも大変なことですが、同様に、引き続き毎年発刊していくことにも多くのエネルギーが必要であろうと思います。この場を借りて、諸先生方の今後のご協力を切にお願いする次第です。

この紀要が朝日大学保健医療学部看護学科の研究活動アーカイブとしても重要な役割を果たしていくことを期待しております。